

令和2年度長崎県普及指導活動外部評価会議結果報告書

項目	内容等
趣旨	本県の農業者や地域のニーズを的確に捉え、より効果的・効率的な普及活動を展開するため、幅広い視点から普及指導活動を客観的に評価し、得られた評価結果をその活動に反映・改善していくことを目的に実施した。
評価方法	評価の項目は次のとおり。 ア 普及指導活動の体制(組織体制、普及指導員の資質向上の取組等) イ 普及指導活動の実施状況(課題設定の背景・目的、普及指導活動の内容、成果等) なお、普及指導活動の実施状況の外部評価は、毎年度、2振興局を対象とし、令和2年度は島原振興局と壱岐振興局を対象とした。
実施時期	令和2年7月20日(月) 13:30~16:30
実施場所	農協会館 701 会議室
外部評価委員	8名(先進的な農業者、若手農業者、女性農業者、農業関係団体、消費者、学識経験者、マスコミ、民間企業)

評価結果

普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	評価した点	普及活動に対する提案	普及指導活動への反映状況
島原振興局	ミニトマト産地における環境制御技術普及に向けた取組	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、部会、個人の課題を分析し、課題設定を数値化している。対象者の選択も的確で、地域での勉強会の取組を中心として、具体的に地域としての展開が良くわかった。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA、市、普及との連携が出来ており、先進的な生産者、意欲ある生産者を中心に勉強会を設置している。 ・きちんとPDCAサイクルをまわされていることは非常に良い。 ・国や県の補助事業の活用もフォローしてもらえることで設備投資も挑戦しやすく新規就農にも繋がる。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所得向上や収量増加といった成果が出ており、データを元にしっかり説明されていた。 ・課題設定が明確で、課題に対して成果がきちんと分析され、わかりやすく提示されていた。 	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器導入に向けた資金面の不安への対応をすること。 ・メーカーや他地域の先進事例も参考にされた方が良い。 ・農家自身の向上心を引き出す部会での勉強会が必要。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境制御機器のメーカーと連携すること。 ・機器導入後の管理がきちんとできない方、機器導入をしていない方、高齢者への栽培指導・対応をお願いしたい。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の部会員や他の部会へもデータ等公表し、成果をわかりやすく内外に伝えることで地域の活性化へ繋げて頂きたい。 ・技術情報は出来れば、動画等で伝えると伝わりやすい。 ・環境制御技術によって、生産量の確保だけでなく品質も向上させるというようにバランスをとりながら推進できないか。ブランド化した産地確立を目指して欲しい。ブランド化をする場合は購入時に違いがわかるよう、商品の個性が分かるPRを短く分かりやすくお願いしたい。 	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の取組では機器導入による収支を試算しており、その試算結果をもとに、今後導入を検討している生産者へ説明を行っていきます。 ・引き続き、県の環境制御技術の研修会等へ参加誘導を行い、また、先進地等への視察研修等を実施し、他地域の取組も参考にしていきます。さらに、指導者側においても先進地視察等を行い、情報収集および部会への情報の共有を図ります。 ・部会全体の検討会において、令和2年産から環境制御技術の内容を取り入れた講習等を実施することとしており、部会全体での導入促進を図っていきます。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メーカーについては、既に勉強会への参集や個別での対応等により連携しており、今後も継続して連携していきます。 ・既に機器類を導入している勉強会メンバーについては、引き続き支援を実施します。また、令和2年産から部会全体の現地検討会において環境制御技術の内容を取り入れることについて部会の合意を得ており、現地検討会時に技術の講習や事例等を説明し、機器を導入していない部会員や高齢栽培者にも指導・対応します。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会全体の検討会において環境制御技術の内容を取り入れ、既存の勉強会メンバーのデータ等を用いて技術の講習を行ないます。また他部会との合同勉強会も継続して行い、地域として環境制御技術の定着を促し、活性化に繋げていきます。 ・SNS等を活用し、動画での講習等も検討していきます。 ・環境制御技術の取組は品質向上に資するものと考えております。まずは環境制御技術により生産性の向上を図り、生産量の確保および契約販売等の増加による各生産者の経営の安定化に取組み、併せて、環境制御技術が品質に及ぼす効果についての調査を行い、ブランド化に向けた協議を部会やJAと行っていきます。

評価結果

普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	評価した点	普及活動に対する提案	普及指導活動への反映状況
島原振興局	特定技能外国人材の受入体制構築	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の農業の高齢化や労力不足に対応するためには外国人材の活用が必要になってくる。JA派遣型は他地域にも拡大できるモデルになると思う。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入にあたり地域住民に対する説明会を開催している。 ・JAや市等の地域を巻き込んだ連携構築が出来ており、役割分担は適切と思う。 ・外国人材にとっての働きやすさ、生活しやすさにも配慮があり、地域住民にとっても安心に繋がる。Wi-Fi完備はアピールポイントになる。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人材の雇用についてはクリアする課題が多い中で実際に外国人材を活用し、一定の成果を出せた。 	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外国人」ではなく、1人の人としてその地域で生きていく為に、地域ぐるみの理解、コミュニケーションが必要。コロナ禍でも工夫した取組でコミュニケーションを取ってほしい。外国人材の活用に抵抗がある農業者、地域の方もいらっしやると思うので交流の場等、心と心の距離を縮める活動も必要。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れた外国人材や地域の人声をアンケートや面談等で定期的に収集し改善に繋げてほしい。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地域でも関心が高いテーマ。今後も続けて活動をしていただき、県内でもっとPR、他地域への普及を図ってほしい。受入れが出来ないところもこのような活動を知ることが大切。 	<p>I 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人材には地区清掃活動など参加可能な地域行事への参加を誘導、地域青年農業者との交流によるコミュニケーションを図るとともに、活動風景などを広報誌で発信し、地域での理解を深めています。また、農業者への説明会では、外国人材の方の働き方・顔が見えるように説明を行っています。 <p>II 活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社エヌを通して、受入外国人の意見などを聞き取るとともに、地域農業者との交流会を行い、直接意見を聞く機会を設けています。また、受け入れたJA、農業者への聞き取りを行い、関係機関・団体と組織する地域労力支援協議会で改善点等を協議することとしています。 <p>III 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動について振興局ホームページ・広報誌への掲載や、県内からの視察の受入れ、県担当者段階での情報共有を引き続き行います。

評価結果

普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	評価した点	普及活動に対する提案	普及指導活動への反映状況
<p>吉岐振興局</p>	<p>地域一体となった肉用牛の振興</p>	<p>I 課題設定 ・状況把握・分析がなされており、アンケートから組織設立、運営支援までの流れをきちんとされて発育の向上・新規就農・規模拡大など成果が見られている。吉岐牛ブランドを維持発展させる地域一体となった取組である。 ・牛に対しての施設が良い。今までの話し合いによる成果。 ・吉岐地域の農業販売額の68%を占める肉用牛生産を支える取組である。</p> <p>II 活動方法 ・毎月1回各部会に分かれ検討会を開催され、地域の関係機関との連携も整備されている。 ・支援、指導体制が充実している。</p> <p>III 活動の成果 ・就農や増頭等、支援策は具体的で地域の見本になると思う。 ・繁殖雌牛頭数が増加している事を始め、各種指標も向上している。</p>	<p>I 課題設定 ・外国人研修生の活用などできないか。</p> <p>II 活動方法 ・ヘルパー組織が内々の組織ではなく、広く色々な業種、色々な年代、女性も協力出来る組織となることを期待する。</p> <p>III 活動の成果 ・枝肉重量の500kg以上(去勢)は必要。 ・検討会や農家への技術支援によりまだ改善できると思うので、今後も活動を継続するとともに、所得向上の支援や、農家の資金繰りを始め吉岐の肉牛生産を守る為の対応により吉岐牛ブランドを守って欲しい。 ・吉岐牛には、「吉岐」だからこそその特色、特長、個性をより前面にPRすることで、生産者も消費者も納得の行く商品づくりを今後も追及して欲しい。 ・新規参入を検討している人等にも参考になると思うので、今後は経営収支など金額データを出してほしい。</p>	<p>I 課題設定 ・株式会社エヌの活用による外国人材のための住居の確保などの課題を解決しながら、市町づくり協議会や市などの関係機関を交えて、活用について検討を進めていきます。</p> <p>II 活動方法 ・現在、多業種間での労力支援組織の検討が始まっており、その内容にはヘルパー組織の機能も盛り込むことになっています。</p> <p>III 活動の成果 ・新たな肉用牛振興計画において吉岐地域肥育牛の枝肉重量の目標値を500kg(去勢)と定め、飼養管理技術の向上で目標達成を図っていきます。 ・今後も巡回指導や検討会を通じて、重点的に新規就農者や規模拡大者の技術向上を図ってまいります。 繁殖牛については新技術も活用しながら指導精度の向上による繁殖成績の向上や、骨格と筋肉を十分発育させる技術の普及による購買者から選ばれる「吉岐牛子牛」作りにより、所得の向上や資金繰りの安定に繋げていきます。 肥育牛については血液検査に基づく飼養管理技術の普及と共に、「吉岐牛」専用飼料の改良を進め、品質が安定して高い「吉岐牛」のブランド力の向上を進めていきます。 ・「吉岐牛子牛」は、無駄な脂肪が無く十分に発育していることが、購買者である肉用牛肥育農家から評価され高価格に反映されています。更に、吉岐地域の肥育牛生産者は使用する飼料を統一し、飼養管理法を研究しながら高い品質の安定化を図っています。振興局はこれに必要な技術情報の提供や現場指導、流通におけるPR、担い手の掘り起こしなどを農業者、JA等関係機関と一体になって進め、今後も「吉岐牛」の商品作りを追及していきます。 ・振興局ではこれまで新規就農した方から関係機関が聞き取った収支状況をもとに、新規就農支援シミュレーターを作成しています。今後も初期投資額や資金繰りシミュレートなどを改良し、新規就農時の参考資料として活用を図っていきます。</p>